

# きららだより

平成29年  
6月号

## 6月の予定

1	木	音楽・運動
2	金	
3	土	
4	日	
5	月	YY
6	火	
7	水	リズム
8	木	音楽
9	金	☆5.6月生誕生会
10	土	育児講演会
11	日	
12	月	
13	火	きららっこ
14	水	歯科健診(午前)・茶道 父の日クッキング
15	木	音楽・運動 父の日クッキング
16	金	お弁当の日・プラネタリウム(たいよう)
17	土	
18	日	父の日
19	月	YY
20	火	
21	水	リズム・茶道
22	木	音楽
23	金	
24	土	
25	日	
26	月	
27	火	
28	水	EE・リズム
29	木	音楽・運動
30	金	きららサロン①

日中は夏のような暑い日が続いています。天気の良い日は、照りつける太陽が真夏のように感じる日もあります。これから梅雨になると涼しい日があつたりして気温の変化が激しく、天候の崩れやすい季節になります。天候とともに体調の崩れやすい時期なので、前の晩に熱が上がったり、本調子では無かったりと感じられた時は、無理をせずにお大事になさって下さい。お休みのできない時は病後児保育室を上手に使って下さい。

進級してから3ヶ月目に入ります。4月当初登園時に泣いていた新入園児もだんだん泣かずに登園できるようになりました、泣いていても保育士にお支度へ誘われると泣き止んで活動に入れたり、子どもたちなりに生活に見通しをつけることができていると感じております。

先月の親子遠足は、あいにくの雨のため中止となってしまいました。お弁当を持って園に来てくださったご家族の方もいらっしゃり、楽しいひと時を過ごせたこと感謝致します。海の公園での遠足を楽しみにしていた子どもたちにとっては大変残念でしたが、これからも楽しい行事がありますので、どうぞお楽しみに。

**プラネタリウム・お弁当の日** 6月16日(金) たいよう組は洋光台にある「こども宇宙科学館」に行きます。きらら子どもの家・かのん保育園のたいよう組と合流し、一緒に楽しむ予定です。この日は、お弁当の日です。にじ組以上のクラスはお弁当と水筒のご用意をお願い致します。年間予定表では23日になっていましたが、変更になりましたのでご注意ください。よろしくお願ひします。

## 実習生について

聖徳大学3年生1人 6月5日(月)～21日(水)

鎌田保育専門学校2年生1人 6月12日(月)～26日(月)

## 学生見学について

横浜女子短期大学1年生31人 6月5日(月)午前

## 新入職員のお知らせ

先生

フリーで色々なクラスに週に2～3回ほど入ります。

よろしくお願ひ致します。

## 6月10日(土)の講演会について

### 講演タイトル『家庭でできるモンテッソーリ教育』

一昨年に引き続き先生による講演を開催いたします。モンテッソーリ教育をご家庭の生活に取り入れられるようなお話が聴かれますので、是非ご参加ください。

## 6月30日(金)のきららサロンについて

今年度最初のきららサロンになります。16時30分～19時の間で行っています。クラスの保護者同士や職員たちと楽しく語りましょう。

## 7月の主な予定

7日(金) 七夕集会  
7月生誕生会

22日(土) きらら祭り

28日(金) お弁当の日

28日(金)～29日(土)  
お泊り保育(たいよう)

その他避難訓練・身体測定

## 『悪い事』と『悪い子』

『悪い事をする子』は沢山いますが、『悪い子』はいません。『〇〇くんは悪い子だね。』『うん。すぐ叩くもんね。悪い子だよ。』子ども達の間で時々耳にする会話です。この会話を聞いた私たちは「叩かれちゃったの？嫌だったね。叩いちゃうのダメだよ。」いけない行動を指摘はしますが、その後「でもね、〇〇君は悪い子じゃないよ。いい子だよ。」と、その子自身を否定する発言は認めません。

子ども達の表現は未熟です。この場合『叩かれて嫌だった』という気持ち=『悪い子』と表現してしまっているだけなんです。叩いた子には叩いた子なりの主張があるかもしれません。（それが大人から見たら通らない理由だとしても。）

指摘すべきなのはその子の『行い』であり、その子『自身』を否定するのは別の問題です。ということは、その『悪い子』はどこにもいないんです。

お家でもお子さんを叱る時に、あなたの『この行いがいけなかった』ことと、あなたは『いけない子』を混ぜこぜに叱らないでください。そしてもし、お子さんの発言にそういった表現があれば是非、『〇〇ちゃんはいいい子よ』と否定する表現を使わないように伝えてあげてください。自己肯定感が育つ大事な時期です。私たち大人が『子どもはみんないい子』そう思って接することで、自分を認め、他人を認められる子に育てて欲しいな。と思います。

悪い事をする時もきっとその子なりの理由があるはずで、分かりにくかったり、衝動的に見えて言葉でも表せない事もあります。でも、その気持ちを誰かに分かってもらえるかどうかで大きく違ってくるでしょう。分かってもらえなければいつまでも主張しなければなりません。言葉で通じなければ、その子にとっては叩くなどの行為が必要になります。気持ちを受け止めてもらえたと思えば、急に落ち着くこともあります。大人でもわかりにくいことがあるので、そういうお子さんには大人の通訳や援助が必要です。「悪い事」と理解できてしないようになるといいですね。

## ぐずる、ごねる行為は、「同意していないよ。」というサイン

食事でも着脱でも排泄でも、次にやる行為を言葉で伝え、子どもが同意するのを確認してからやるのが大事です。これによって、子どもが先の見通しを立てることができるからです。

なかなか自分でやろうとしないという嘆きの声を聞きますが、どんなに小さい子でも、「こうしたい」という気持ちは必ず持っています。それと現実をマッチングさせるためにも、できるだけ見通しの立つ状況が増えるように配慮すると、子どもたちの不安も消え、主体的な行動となって現れます。

例えば、ズボンが濡れたとき、黙っていきなりズボンを下すのではなく、「濡れちゃったね。冷たいね。」「きれいなズボンに替えようね。」「気持ちが良くなるからね。」と言葉にしてから始めると、子どもに見通しが立つようになり、次第にぐずることもなくなります。

ぐずる、ごねるという行為は、「今はそれをやりたくない。ほかのことをやりたい。」という自分は同意していないよというサインです。だから、「今からおむつ替えようね。」「ズボンを替えようね。」と同意をとること。子どもを対等な人間として認め、小さな約束を積み重ねる習慣が自立性を高めます。

「シャツを着せるから、手をあげてね。」などこれからやることを声に出し、『同意を確認する』をきちんとやり続けていくと、子どもはどんどん見通しが立つようになり、自分から主体的に着脱しようとするようになります。